

飢餓のない幸せなバングラデシュに向かって!



HFW バングラデシュ事務局長 アタウル・ラーマン・ミトン

私たちは、バングラデシュが自立と幸福に向かって旅を続けていくことを願っています。経済成長のための行動が、心の安らぎと魂の幸せを枯渇させてはいけません。こころのビタミン研究所のサポートは、このことをバングラデシュのボランティアグループに教えてくれ、それが他の人々にも広がっています。こころのビタミン研究所の支援は、多くの女性たちからなる「ウイメン・エンディング・ハンガー」のメンバーにとっても力づけであり、栗原弘美さんは彼女たちの天使です。

こころのビタミン研究所からの支援は、学校の運営、生徒の勉強と栄養価の高い給食の提供、有機農業センターの運営に役立てられています。また、バングラデシュの平和と調和、また持続可能性を推進することにコミットしてくださっていることにも感謝いたします。

目標を達成するために、ミトンとアンジュのリーダーシップにさらなる支援が必要です。私たちは皆さんの支援と無条件の愛に感謝しています。「2021年までに飢餓のないバングラデシュにする」というビジョンと、将来の幸せで平和な国の実現を楽しみにしています。

ともに創造しましょう! 感謝をこめて。



仮装した生徒たち



椅子取りゲーム

12月はバングラデシュの人々にとって勝利の月です。1971年、バングラデシュが独立戦争の末パキスタンから独立した際に、日本が最初にバングラデシュの勝利を支持して以来、日本はバングラデシュ発展の主要なパートナーです。今日のバングラデシュは、7%のGDP成長率を誇る南アジアの先進国で、たかさんの国のロールモデルとなっています。

国家は「ビジョン2021」という大きなビジョンに触発されています。ハンガーフリーワールドは、このビジョンをバングラデシュの人々の間で推進するのに大きく寄り添い、栗原弘美さんと彼女のチームは、2003年以来「ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ」というダイナミックなセミナーを通して、ビジョン2021のボランティアメンバーに「一緒に働く」という精神と「相互依存」の実践の必要性を教え、それによってボランティア達はバングラデシュ国内の約2000人からなる「ビジョン2021フォーラム」という組織を作りました。彼らは2021年に「独立の黄金の祝典」を祝うことをビジョンとして思い描き、準備しています。

バングラデシュは、2018年12月30日に第11回全国選挙を行いました。この選挙を通じて、新しい政府が形成されました。

ハートフルファミリーの集い開催します!

2019年4月13日(土)

18:30より

会場:ビジョンセンター田町

職業訓練校の建設が進むハイチが今回の集いのテーマです。

ハイチを愛し、活動されているゲストもお迎えします!



こころのビタミン研究所の活動にご支援よろしくお願いします!

【振込先】郵便局:ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271

銀行口座:三井住友銀行 三田通支店 普通7852939

【口座名(郵便局・銀行共)】特定非営利活動法人こころのビタミン研究所



〒108-0073

東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F

TEL:03-5765-1956 FAX:03-5765-1961

E-mail:info@cocoro-v.org

URL:http://www.cocoro-v.org

ブログ:http://ameblo.jp/cocoro-v

Facebook:認定NPO法人こころのビタミン研究所

ビタミンニュース NO.24 平成31年2月号

発行日/2019年2月25日 発行/認定NPO法人こころのビタミン研究所

税金の控除が受けられます
こころのビタミン研究所への寄付金は、確定申告をすることで税額の控除が受けられます。

Vitamin News

ビタミンニュース NO.24 2019年2月号



ハイチから

職業訓練校の建設工事が着々と進んでいます!

こころのビタミン研究所が全面的に支援しているハイチのNGOイニシアティブ・アゲインスト・ハンガー(IAH)の新しいプロジェクトである、職業訓練校の建設工事が進んでいます。ハイチでは失業率が70%を超えていると言われていて、学校を出ても専門的な訓練を受ける機会がありません。IAHでは、ハイチの若者が仕事と収入を得て国内で暮らしていける為に、支援をしています。

建設地は医療保健センターの敷地内にあり、現在は外壁の工事を終えて、コンクリートの屋根をつける段階です。ハイチでは、雨季の影響、材料費の高騰、政情の不安定さなどから、日本のように工事計画に沿って進めることは容易ではありませんが、代表のセンチルさんと地元の人たちは今年3月の完成を目標に進めています。

こころのビタミンでは建設費として、昨年6月の着工時に4万ドルを送金、今年1月には1万五千ドルを追加支援しています。

ハイチの人々が安定した生活を送ることができ、ハイチ国内の経済状況改善にも繋がるよう、これからも皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



予防接種を受ける子ども



赤ちゃんの体重測定



満員の診療所

高岡さんとセンチル



建設工事を監督するセンチル(右)



作業する人々

地域に必要とされる医療保健センターに



2018年10月から12月の間には、一般診察と合わせて120人の児童と37人の妊婦へのワクチン接種、また、栄養失調児への食糧の配布と、コレラ感染を防ぐための健康管理として、公衆衛生などの啓蒙活動を行いました。

医療保健センターは平日8時半からの診療ですが、10時過ぎにはたくさんの人たちであふれています。ワクチン接種は保健省から派遣された看護師が行い、子どもたちには接種後、栄養を添加したライスパックを配りました。このライスパックもこころのビタミン研究所からの支援です。

今回の報告および写真は、『ハイチの会セスラ』代表の高岡美智子さんが11月20日~12月1日にハイチ視察へ行かれた際、パートナーとしてこころのビタミン研究所の支援先も視察してご報告下さり、その内容を掲載させていただきました。政情不安定な中、視察してくださった高岡さんに心より感謝いたします。

インターナショナルトレーニングに センチルさんが来日

8月11日～18日東京ベイ有明ワシントンホテルで行われたビジョン心理学
インターナショナルトレーニングにハイチからセンチルさんをお招きしました。

センチルさんはセミナーの中で、自国の状況や活動についてプレゼンテーションし、「ハイチには豊かな人もいますが、豊かな人は貧しい人と分かち合うことをしていないと気づき、学生だった私は飢餓と向き合う活動を始めました。その結果新生児の死亡率を著しく下げ、子どもたちの健康状態を非常に改善できたことを大変誇りに思っています。また、経済的な危機で若者たちが国外に流出するということが起きた時、弘美さん、英彰さんを始め皆さんのサポートを受け職業訓練校を建てるというビジョンを持ち、それを伝えるとすぐに支援を決めて下さったことに心から感謝しています。皆さんの支援が私の自信にも繋がっています」と話しました。

恒例のチャリティーオークションの売上は120万円にも上り、今回のセミナーでの寄付総額は約150万円にもなりました。皆さんのご支援ありがとうございました。



プレゼンテーションするセンチル

センチルさんにインタビュー。 その半生を語ってくれました。

私は1964年に首都のポルトープランスで生まれ、現在54歳です。22歳の時に国立ハイチ大学に入学し、26歳～31歳までは国営ラジオ局のジャーナリストとして働いて、大使館員等主要な方々に会いました。

1990年に隣国ドミニカ共和国に招かれ、そこでハンガー・プロジェクトの青少年組織「ユース・エンディング・ハンガー (YEH)」を知りました。そして1995年、NYのユニセフハウスで行われたYEHの飢餓をなくすための国際会議「グローバル・ユース・カンファレンス (GYC) 第二回世界大会」に参加し、そこで、主催者の祢津都子さんやバングラデシュのミトンさん、世界各国の若者に会いました。

その頃から私は、首都のスラム、シテソレイユの貧しい人々に食料を提供する活動を始めていました。ハイチが良くならないのは、教育を受けた優秀な人材が皆国を捨てて出てしまうからだ。ならば、自分はハイチに残って貧しい人たちのために働こうと思ったのです。

1995年のGYCで、シテソレイユに保健センターを作りたいという私のプロジェクトに支援が決まり、私の医療活動がスタートし、今年で23年になります。2006年からは、こころのビタミン研究所が私の活動を支援して下さり、2013年には医療保健センターが建設され、そして、今、長年の夢だった青少年の職業訓練校の建築が進んでいます。みなさまには感謝の言葉もありません。

家族は、妻と21歳の息子、19歳の娘がいます。妻はハイチのNGOでエイズ撲滅の活動をしており、ビジョンが同じなので、とても助けてくれます。子供たちは2010年の地震で通っていた学校が無くなってしまい、今アメリカに住んでいます。妻とはとても仲が良く、いつか日本と一緒に来たいと思っています。



センチルとファミリー



子ども支援

渋谷papamamaマルシェに出展しました

2018年11月24日(土)渋谷区フレンズ本町で、渋谷区内の0歳～3歳児を持つ親子のためのイベント『第3回渋谷papamamaマルシェ』が開催され、こころのビタミン研究所では子ども向けに『からだ先生のおはなし会』、大人向けにカードリーディングを出展しました。子どもたちは身体のしくみについてのお話を聞き、手作りの臓器の模型を見て、驚きつつも興味しんしん。また、大人向けのカードリーディングも大人気で、子育てで時間的にも忙しい中、自分の考えや気持ちを整理したり、自分をいたわる機会が必要とされていると感じました。

また、今年度は子ども支援として、NPO法人猫の足あと(西東京市)、NPO法人ほっとすぱーす・つき(千葉県佐倉市)、てらこや新都心(さいたま市)、NPO法人ピアサポートネットしづや(渋谷区)の各団体にそれぞれ30万円を寄付いたしました。



「からだ先生のおはなし会」の様子

被災者支援プログラム

多くの方にご利用いただいています

2018年10月21日、仙台と熊本で被災者支援プログラムの対象セミナーが開催され、仙台・熊本合わせて約30名の方が、一般参加者と一緒に心の癒しを目的に、1日のセミナーに参加されました。

「大きな悩みはないと思っていたが、何故かセミナー後はよく眠れるようになり、人生の大きな転機となった」という声もありました。精神的なケアの必要性は、震災直後ではなく時間が経過してからと言われています。

被災者支援プログラムでは、対象のセミナーに無料または半額でご参加いただける他、無料でカウンセリングも行っています。お知り合いをぜひご紹介ください。



相談支援事業

ESP学園の学園祭に出展しました

国内の相談支援事業として、定期的にカウンセラーを派遣している都内の専門学校ESP学園の学園祭が2018年11月3日、4日に開催され6人のカウンセラーが出向き『カードの館』を出展、カードリーディングを行いました。

在校生や講師の先生方、外部の方など50人以上がブースを訪れ、「昨年具体的な悩みを相談して、よかったからまた来た」という声も。この出展で相談室の存在を知り、利用する学生も増えています。

カウンセラーも「みなさん真剣にお話していただき、私もとても楽しく学びの多い時間を過ごさせていただきました」と語っていました。



開始前に練習するカウンセラー

福島でも講座を開催しました

福島県でも心の癒しにつながる講座を開催してほしいという要望を受け、こころのビタミン研究所の母体であるビジョンダイナミクス研究所との共催で、2018年11月17日、福島市の正眼寺にて3時間の講座を低価格で開催、地元の方多くの方にご参加いただきました。

参加された方は、「セミナー中のワークを通じて感情がいやされた」「自分と向き合う時間がとれたことに感謝します」などと語っていました。

